

山車と装飾

立川芳郎尚富

○民衆の感動をよんだ山車

日本人は大きい物、美しい物に神を感じ、山などの自然信仰から始まり、巨大古墳、大神殿、寺院では五重塔や大仏など人工物が出現してきた。

古来より大きく美しいという基本は常に共通し、それを造り上げる中で美術工芸が発展した。さらに山車という動く豪壮な社を創作したことにより、最高の美をもった尊いものが民衆の目の前に動いてくるといふ感動をつくりあげた。その感動はからくり人形から機械文明の基礎までつくりあげた。

○山車を飾る美術品

山車を飾る幕や彫刻では、作家による絵画、造形のすばらしさはもとより、それを表現する素材の魅力が加わり美術と工芸が一体化した独自の美を引き出している。

山車を覆う幕は巨大なキャンバスとなり、有名画家の絵による絵画が刺繍で表現されていることが多い。画家の絵画が刺繍職人による立体感をもった表現力が加わり、より魅力的なものとなっている。彫刻や幕のまわりにはアクセントのように光輝く金具が付けられ、豪華な額を表現している。金具は制約された狭い画面の中で究極のデザインを見ることができる。



亀崎中切組「力神車」大幕下絵、大幕



犬山祭 中本町幕



新町 金具

○山車彫刻の見方を掘り下げる

日本人の美意識は日光東照宮を代表とする絢爛豪華なものから桂離宮のような侘寂を表現するものまで幅広く豊かな感性をもっている。

山車を飾る彫刻もまさにその両極の表現を見ることができる。極彩色の彫刻はまるで日本画が3Dになったかのように実に華やかで美しい。



高山祭 屋台彫刻

素木彫刻は写實的且つシャープで深い表現力がある。色が無いのに本物の動物や植物のように見える不思議な魅力がある。人体表現においては木目を生かすことにより、造形の面白さと工芸的な魅力を合わせた独特の魅力を作り出している。



亀崎田中組「神楽車」壇箱彫刻



亀崎中切組「力神車」力神



桑名 石取祭 粟穂に鶉



桑名 石取祭 狂兎穴

一方、祈りの面から彫刻を鑑賞してみると、柱を繋ぐ梁には唐草模様が彫られていることが多い。これは「若葉」といってこれからの成長、発展を祈っている。角には神の守護として獅子や猿、象が飾られている。